まちのミカタ
Litaracy
ーりたらしいー
142
2026年11月



特集

岡崎百景から10年、あたらしい「あたりまえ」を刻む

2016年、岡崎市制施行100周年を記念して「岡崎百景」を選定しました。一般に「○○百景」というと、その地域を代表する名所や旧跡などが選ばれることが多いものです。一方、岡崎百景では、市民一人ひとりが愛着を感じている景色や、個人的な思い入れのある場所を推薦し、その中から市民投票によって、多くの共感を集めた100の景観を選びました。

公募には83人から122の景観が寄せられ、多様な市民の視点や、それぞれの場所への愛着が映し出されました。市民と景観とのつながりや、そこにある一人ひとりのドラマに焦点を当てた取り組みは高く評価され、2017年には国土交通省の都市景観大賞で優秀賞を受賞しました（本誌vol.87参照）。

あれから10年。新たに生まれた景観がある一方で、姿が変化した景観や、時とともに変化した景観もあります。また、まちが変化するなかでも、今なお変わらず続いている景観もあります。その一つひとつが、今の岡崎を形づくる、かけがえのない景観です。

今号では、市制施行110周年と、りた設立20周年を記念して、岡崎百景からの10年間を振り返りながら、大切な「あたりまえ」の景観を募る「岡崎百十景」についてご紹介します。

特集

岡崎百景から10年、あたらしい「あたりまえ」を刻む

2016年以降のまちの動き

「岡崎百景」が選ばれた2016年から、この10年で岡崎の風景は大きく変わりました。しかし、変わったのは建物や道路、公園などの「かたち」だけではありません。そこに人が集まり、過ごし、活動することで、まちの使われ方そのものも少しずつ変わってきました。

たとえば、籠田公園や中央緑道、桜城橋など、QURUWAを形づくる公共空間が次々と整備されました。りたは、こうした場所を豊かに使いこなすための試行錯誤を重ねてきました。乙川では「おとがワ！ンダーランド」などの社会実験をきっかけに、水辺で過ごしたり、活動したりする人が増えました。公園愛護運営会の設立支援や、市民活動・地域活動の支援を通じて、「まちを使う人、育てる人」も少しずつ増えています。

中山間地においては、深刻な人口減少や少子高齢化に対応する地域づくり、森や田畑、水源を守ろうとする取組もこの10年間で活発になってきています。

●新しい風景、変わりゆく風景

ほかにも、JR岡崎駅周辺の区画整理の進展、龍北総合運動場のリニューアル、三井アウトレットパーク岡崎の開設、額田センター・こもれびかんのオープンなど、公民によるハード整備が進みました。その一方で、東公園のゾウのふじ子との別れや、東岡崎駅の顔として親しまれてきた岡ビルの解体など、私たちの記憶に残る風景が姿を変える出来事もありました。南公園の再整備や阿知和地区工業団地の整備など、岡崎の風景は今も動き続けています。

コロナ禍が私たちの日常に与えた影響や、ゲリラ豪雨や線状降水帯による水害や土砂崩れなどが増えていることも、10年前にはなかった変化と言えるでしょう。

●大切な「あたりまえ」を刻む

今回の「岡崎百十景」で集めたいのは、誰もが知る名所だけではありません。毎朝通る道、子どもと遊んだ公園、いつもの川辺、地域のお祭り、変わってしまったけれど心に残っている風景。そこには、その場所を大切に思う一人ひとりの「私とまちのドラマ」があります。

そうした愛着や思い入れのある景観をたくさん集めること、そしてそれらをわかちあい、まちの魅力や景観を守り育てる活動への理解と共感を集め、未来に伝えることが、岡崎のまちを育てる原動力になると信じています。あなたにとっての「残したい」「誰かに伝えたい」岡崎の景観を、ぜひ教えてください。

岡崎百十景の応募方法

岡崎百景では、２年間にわたる「推薦人会議」を経て、おすすめの景観を表す「写真」「タイトル」「推薦文」を提出していただきましたが、今回はWebフォームで、期間中、どこでも、どなたでも応募できるようになりました（お一人３点まで）。下記二次元コードよりアクセスしてください。途中で保存して後から編集することもできます。

対象は、2016年7月2日以降に撮影した岡崎市内の景観です。詳しい条件は応募フォームをご確認ください。締切は11月15日。



▲応募フォーム（イメージ）

●評価の視点（岡崎百景から継承）

①**発　見**：知られざる岡崎の姿がある
②**共　感**：人に伝えたくなる物語がある
③**地域性**：その場所ならではの特徴がある
④**市民性**：市民が主体となって支えている
⑤**気づき**：失いたくない「あたりまえ」の大切さを教えてくれる

●選定までの流れ

9/15-11/15　応募受付
12/15-1/15　市民投票
2月　専門家審査
3/13　お披露目会

▲応募はこちら
okazaki110kei.web.app

まちづくりレポート

支え合いのまちをつくる
ー地域と福祉のつながり①ー

●まちのことをまちのみんなで 第11回「岡崎アイデアソン」を開催しました

8月31日、第11回「岡崎アイデアソン」を開催しました。アイデアソンとは、アイデアとマラソンを掛け合わせた言葉で、参加者がテーマについて自由に意見を出し合う会のことです。企画と運営はりたが担当し、地域包括支援センター（以下、包括）の職員や地域の役員、企業の関係者など63名が参加しました。今回のテーマは**「まちのことを、まちのみんなで～マップで広げる、岡崎のつながり～」**です。地域の情報を集め、まちづくりにどう活かすかを話し合う機会になりました。



▲会場の様子

●出し合った意見を地域資源マップに

はじめに、包括が担う地域づくりの役割と、地域資源マップ（以下、マップ）を作る目的について説明しました。その後、参加者はグループに分かれ、マップにどんな情報を載せたいかを話し合い、内容を整理してタイトルをつけました。

事例では、不審者に関する情報を地図上に示すことで危険な場所が分かりやすくなり、注意を呼びかけられたアイデアや、西梅園地区の「おでかけカレンダー＆おでかけマップ」（下記Topics参照）を紹介。これらを参考に、外出時のトイレマップや、ペットと一緒に避難できる場所やバリアフリーに関する情報、ヘルパー用駐車場の有無など、暮らしや介護予防に役立つ具体的な情報が住民・企業・包括それぞれの視点で次々と出されました。


▲グループに分かれ、掲載情報について話し合う参加者

●情報をつなぎ、住民同士の関係づくりを

包括は、マップづくりを地域の課題を解決する道具として位置付けています。すべての情報を包括だけで集めるのではなく、地域に既にある情報をつなぐ役割を担うことで、住民が自分たちで必要な情報を得られるような関係づくりを進めています。地域の情報を集め、多様な活動や世代をつなげるという発想は、りたが関わる西梅園地区の活動にも活かされています。

りた's EYE

包括の役割は、高齢者やその家族が抱える生活上の不安や課題を解決し、地域での自立した生活を支えること。介護・医療・保健・福祉などの様々な面から高齢者を支える相談窓口でもあります。りたは、こうした包括の取組を地域の皆さんに知っていただき、住民同士が情報交換し、支え合える関係を地域の中に作ることを目指しています。

Topics

支え合いのまちをつくる
ー地域と福祉のつながり②ー

●月1回のキノエノ茶話会　マップがおでかけのきっかけに

「おでかけカレンダー&おでかけマップ」(以下、おでかけマップ)は、りたが毎月発行する西梅園ならではの情報紙です。

岡崎市の西梅園地区は道幅の狭い路地が残り、空き家や高齢者だけの世帯が増えている地域です。空き家を改修したシェアハウス「キノエノ*farm house」を拠点に月1回の茶話会を開催し、毎回10名ほどのご近所さんが交流・意見交換をしています。毎回QURUWAエリアの朝市や月待会などのイベントやラジオ体操など日常の活動を掲載したおでかけマップを配り、ちょっとした外出につながる情報を紹介。普段顔を合わせない人との立ち話や、知らなかったお店に立ち寄るきっかけが生まれ、顔の見える関係を自然に広げています。20代の飲み友だちができた方もいるそうです。


▲茶話会の様子
みんなでどら焼きを作り、近所の和菓子屋についておしゃべりしました。お店を用途や名物によって使い分けしているそう。

拠点運営での取組報告

やはぎかん　7月26日(日)　まちのプロが先生！「夏の宿題大博覧会」

●総来場者数　1700名
●協働先　NPO法人岡崎がくどうの会、慈恵福祉保育専門学校
●協賛　株式会社たけうち
○小学生と保護者を対象に、第２回となる夏休みの宿題を支援するイベントを開催。市民活動団体、事業者から生徒、学生まで30を超える多様な主体がそれぞれの視点から「宿題のヒント」を提供しました。初の試みとなる「子ども博士ブース」では、お城博士と星博士が登場し、工夫を凝らした展示や解説で専門知識を披露。「好き」を深め、学び、発信する姿に、子どもたちの大きな可能性を感じることができました。また、センター間の連携を活かし、りぶら市民活動センターもブース出展。未来の市民活動・地域活動の担い手である子どもたちが、SDGsやボランティアについて楽しみながら考える場となりました。


▲お城博士　説明に熱が入る

なごみん　8月4日(火)・5日(水)・6日(木)「なごみん横丁」

●総来場者数　1153名
●協働先　光ヶ丘女子高等学校、デイサービスほほえみ、他(計14団体)
○夏の恒例イベント「なごみん横丁」。労働の対価として得られる“じゃん”から、20%の税金が徴収されます。今年は「なぜ税金を納めるのか」を子どもたちに考えてもらうため、専門講師から学ぶ場を設けました。その後、子どもたちは、まちをよりよくするための税金の使い道を自分たちで決定しました。働いて“じゃん”を得ることだけでなく、税金を納め、その使い道について考えるところまでを体験することで、まちを支える仕組みについて考える機会となりました。子どもたち自身が税金の意味を考え、まちのためにどう使うかを決める、今年ならではの取り組みとなりました。



▲銀行　“じゃん”の出入金、税金徴収を行う

りた職員の思いを伝える！コラム　またもらっちゃう！？

昔は「収集」といえば、切手や絵葉書、観光地のペナントや提灯が王道でした。今ではダム/橋/トンネルカード、御朱印、さらにはポケモンGOまで…「集める」楽しみはずいぶん多様になりました。どうやらニンゲンって、集めるのが好きなイキモノなのですね。ところで、私の勤務するりぶら市民活動センターでは、マンホールカードを配布しており、全国各地の人々が訪れます。いつしか私も旅先で「配布中」を見ると、ついもらってしまうようになりました。カードを求めて、その場所を訪れる。または、せっかく来たのだからとカードをもらう。いずれにしても、そこで食事や買い物をしたり、観光地を巡ったり。カードをきっかけに、人がまちを訪れ、知らなかった場所や風景に出会う。そのカードは旅の記念になる。そう考えると、カード集めも、ずいぶん昔からの変わらぬ「旅の楽しみ」のひとつなのかもしれません。

次の旅で「配布中」の文字を見つけたら……たぶん、私、また一枚もらっちゃうんだろうなあ。



鈴木千鶴（りぶら市民活動センター　センター長）
青春１８きっぷヘビーユーザー。仕様変更があって、使い勝手は少し悪くなりましたが、まだまだ乗ります。
最近もらったマンホールカードは土浦市と水戸市のもの。さて、次はどこへ行こうかな。

お問合せ		よりなん	59-3600	むらさきかん	66-3066	市民活動センター	23-3114
なごみん	66-8251	やはぎかん	33-3665	悠紀の里	57-5050	まち育て推進チーム	23-2888

まちのミカタ
Litaracy
2026.11　vol.142

発行・編集
特定非営利活動法人 岡崎まち育てセンター・lita
〒444-0031 愛知県岡崎市梅園町3丁目6-6
TEL（0564）23-2888／FAX（0564）23-2898
http://www.okazaki-lita.com/
https://www.facebook.com/okazaki.lita/

配布
岡崎市図書館交流プラザ・Libra／岡崎市内の地域交流センター
会員宛へ郵送 等　※会員登録をご希望の方は左記までご連絡ください。

配布協力
岡崎市役所各支所／岡崎市各市民センター／シビックセンター／
FMおかざき／杉くんの駄菓子屋／松應寺／cafeくらがり／